

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

韓国、9月輸出額は月次で過去最高額に(Asia Weekly (9/30~10/6))

～世界経済の自律回復が続いていることを示す動き～

発表日:2017年10月6日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

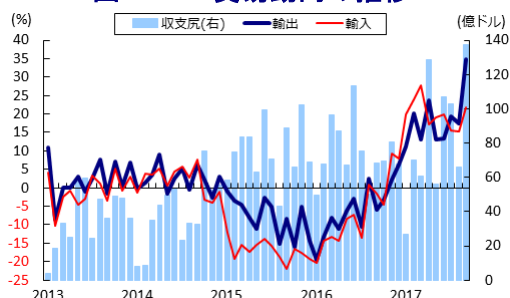
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/30(土)	(中国)9月製造業 PMI	52.4	51.6	51.7
10/1(日)	(韓国)9月輸出(前年比)	+35.0%	+25.0%	+17.4%
	9月輸入(前年比)	+21.7%	+20.6%	+14.2%
10/2(月)	(タイ)9月消費者物価(前年比)	+0.86%	+0.50%	+0.32%
	(インドネシア)9月消費者物価(前年比)	+3.72%	+3.70%	+3.82%
10/3(火)	(豪州)金融政策委員会(政策金利)	1.50%	1.50%	1.50%
	(香港)8月小売売上高(前年比/数量ベース)	+3.2%	+4.0%	+4.6%
10/4(水)	(インド)金融政策委員会(レポ金利)	6.00%	6.00%	6.00%
10/5(木)	(豪州)8月小売売上高(前月比/季調済)	▲0.6%	+0.3%	▲0.2%
	(フィリピン)9月消費者物価(前年比)	+3.4%	+3.1%	+3.1%
10/6(金)	(マレーシア)8月輸出(前年比)	+21.5%	+20.0%	+30.9%
	8月輸入(前年比)	+22.6%	+20.9%	+21.8%
	(台湾)9月消費者物価(前年比)	+0.50%	+0.90%	+0.96%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国] ～世界経済の自律回復の動きを反映して輸出は一段と加速、月次ベースの輸出額は過去最高に～

1日に発表された9月の輸出額は前年同月比+35.0%となり、前月(同+17.4%)から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヶ月連続で拡大している上、そのペースは大きく加速しており、中期的な基調も加速感を強めているほか、月次ベースの輸出額として過去最高を更新している。国・地域別では、在韓米軍によるTHAAD(高高度防衛ミサイル)配備を理由とする「嫌がらせ」に伴い下押し圧力が掛かった最大の輸出先である中国向けに底入れの動きがみられ、米国やEU、日本などの先進国向け輸出が軒並み拡大したほか、ASEANをはじめとするアジアのみならず、中東や中南米など新興国向け輸出も軒並み拡大しており、世界経済の自律回復の動きが輸出の押し上げに繋がった。一方の輸入額も前年同月比+21.7%と前月(同+14.2%)から伸びが加速している。前月比も2ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も加速感を強めており、堅調な輸出を反映して原材料をはじめとする素材及び部材関連の需要拡大が輸入額の押し上げに繋がっているとみられる。結果、貿易収支は+137.50億ドルと前月(+65.96億ドル)から黒字幅が拡大し、月次ベースの黒字幅としても過去最高を更新している。

図1 KR 貿易動向の推移

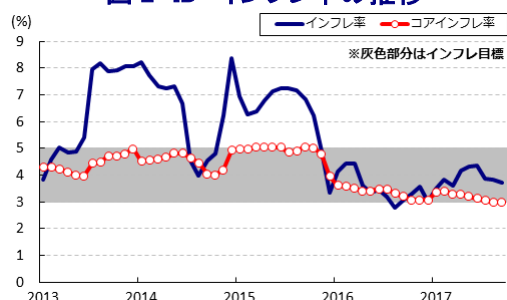


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インドネシア] ～生活必需品を中心に物価は落ち着いた展開が続くが、今後はルピア相場の動向に注意～

2日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+3.72%となり、前月(同+3.82%)から伸びが鈍化した。前月比は+0.13%と前月(同▲0.07%)から2ヶ月ぶりに上昇に転じているものの、わずかな上昇に留まるなど物価上昇圧力は高まっていない。生鮮品を中心に食料品価格の上昇圧力は後退しているほか、エネルギー価格もほぼ横這いでの推移が続いており、生活必需品を中心に物価は落ち着いた展開をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.00%となり、前月(同+2.98%)からわずかに伸びが加速しており、前月比も+0.35%と前月(同+0.28%)から上昇ペースが加速している。教育関連など一部のサービス物価に上昇圧力が高まる動きがみられるほか、年明け以降の輸送コストの上昇などに伴う価格転嫁の動きを反映して一部の消費財物価に上昇圧力が高まる動きがみられるものの、全般的に落ち着いた展開が続いている。ただし、足下の国際金融市場では米ドル高の動きを反映して通貨ルピア相場に下落圧力が高まる展開もみられるなど輸入インフレ圧力が高まる可能性もあり、今後の為替動向には注意が必要になるだろう。

図2 ID インフレ率の推移

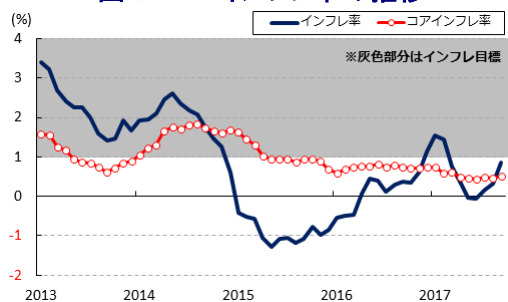


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ] ～酒・タバコ増税の影響や生活必需品にインフレ圧力の一方、全般的に物価は落ち着いた展開～

2日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+0.86%となり、前月(同+0.32%)から伸びが加速した。前月比も+0.58%と前月(同+0.11%)から上昇ペースが加速しており、生鮮品を中心に食料品価格に上昇圧力が掛かる動きがみられるほか、このところの原油相場の底入れなどを反映してエネルギー価格も上昇基調を強めるなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が高まる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.53%と前月(同+0.46%)から伸びが加速しているものの、前月比は+0.05%と前月(同+0.05%)と同じ伸びに留まっており、必ずしも物価上昇圧力が高まっている訳ではない。先月16日から酒税及びタバコ税が引き上げられた影響で、酒類及びタバコ類の物価が押し上げられたほか、昨年来のエネルギー価格上昇などを反映して輸送コストが押し上げられる動きはみられるものの、消費財物価については全般的に落ち着いた展開が続いている。サービス物価についても全般的に横這いでの推移が続いており、外需主導による景気回復期待が高まっているにも拘らず、内需を巡る不透明感が物価の重石になっている。

図3 TH インフレ率の推移

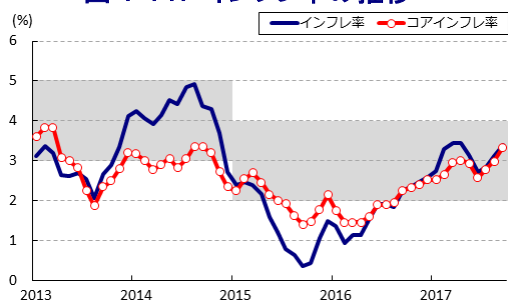


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン] ～生活必需品のみならず幅広く財・サービスに物価上昇圧力が高まり、インフレ率は加速～

5日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+3.4%となり、前月(同+3.1%)から伸びが加速した。前月比も+0.47%と前月(同+0.34%)から上昇ペースが加速しており、生鮮品を中心に食料品に物価上昇圧力が高まる動きがみられるほか、このところの原油相場の底入れなどを反映してエネルギー価格にも幅広く上昇圧力が掛かるなど、生活必需品を中心にインフレ基調が強まっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+3.34%と前月(同+2.99%)から伸びが加速しており、前月比も+0.48%と前月(同+0.28%)から上昇ペースも加速している。昨年来のエネルギー価格の上昇などに伴う輸送コストの上昇を反映して、価格転嫁の動きなどにより幅広く消費財価格に上昇圧力が掛かる動きがみられるほか、サービス価格も上昇しており、底堅い海外移民からの送金流入などを追い風に個人消費が旺盛な推移をみせていることも物価押し上げに繋がっている。さらに、年明け以降は通貨ペソの対ドル為替レートの調整模様が続いており、この動きに伴って輸入インフレ圧力が高まっていることも、幅広いインフレ圧力の高まりに繋がっている可能性も考えられる。

図4 PH インフレ率の推移

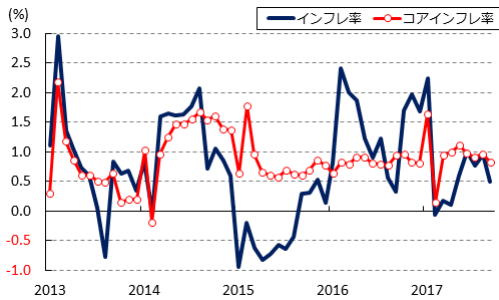


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾] ～生活必需品のみならず、サービス物価も下落が続くなど総じてインフレ圧力は後退している～

6日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+0.50%となり、前月(同+0.96%)から伸びが鈍化した。前月比も+0.00%と横這いで推移するなど、前月(同+0.15%)から上昇ペースが鈍化しており、物価上昇圧力は後退している。生鮮品を中心に物価上昇圧力が後退する動きがみられるほか、年明け以降の原油相場の頭打ちなどを反映してエネルギー価格の上昇ペースも鈍化しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退している。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.82%と前月(同+0.96%)から伸びが鈍化しており、前月比も▲0.06%と前月(同▲0.13%)から2ヶ月連続で下落するなど、物価上昇圧力が後退している。年明け直後のエネルギー価格の上昇の動きなどを反映して輸送コストに押し上げ圧力が掛かる動きがみられるものの、消費財物価は総じて落ち着いた動きが続いているほか、サービス物価については下落基調が続いており、外需主導による景気回復期待にも拘らず物価が高まりにくい状況となっている。

図5 TW インフレ率の推移

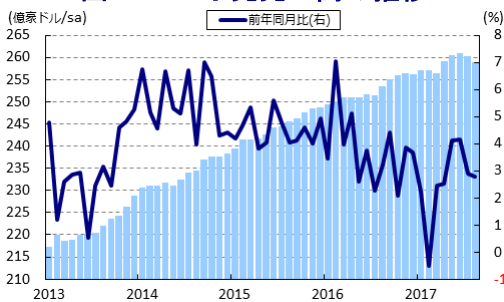


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[豪州] ～日用品や生活必需品の需要が弱含むなか、大都市のみならず地方でも小売売上を下押し圧力～

5日に発表された8月の小売売上高(季調済)は前月比▲0.6%と2ヶ月連続で減少しており、前月(同▲0.2%)からそのペースも加速するなど急速に下押し圧力が掛かっている。財別では、これまで調整模様が続いてきた高額消費に底打ち感が出ている一方、衣類をはじめとする日用品に加えて、食料品などの生活必需品の売上も減少基調を強めるなど、調整圧力が根深いものになっている様子がうかがえる。地域別では、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や、第2の都市メルボルンを擁するビクトリア州など大都市部のみならず、その他の地域でも調整するなどすべての州で減少するなど調整圧力が全土に広がっている。足下では大都市部を中心に雇用環境に改善の動きが広がっているにも拘らず、消費が弱含んでいる背景には、賃金の伸び悩みやデスインフレ基調が続いていることも影響している可能性が考えられる。なお、中期的な基調も減速傾向を強めており、個人消費に下押し圧力が掛かりやすい状況が続いている。

図6 AU 小売売上高の推移

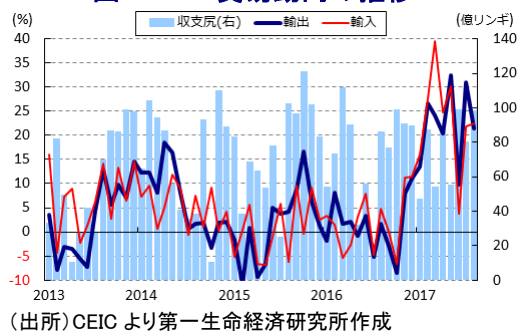


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア] ～世界経済の自律回復に伴い電子部品や電気機器関連の輸出は堅調な推移が続いている～

6日に発表された8月の輸出額は前年同月比+21.5%となり、前月(同+30.9%)から伸びが鈍化した。前月比も▲1.7%と前月(同+8.7%)に大きく拡大した反動で2ヶ月ぶりに減少に転じているものの、中期的な基調も減少に転じるなど一進一退の展開が続いている。世界経済の自律回復の動きを反映して電子部品や電気機械関連のほか、パーム油や木材、天然ゴムなど幅広い財で輸出拡大の動きがみられる一方、原油相場の頭打ちの動きなどに伴い原油や石油製品関連の輸出に下押し圧力が掛かり、輸出全体の足を引っ張る格好となった。国・地域別では、中国向けのほか、米国やEUなど先進国向けは堅調な推移が続く一方、ASEANなど周辺のアジア新興国向けの鈍化が下押し圧力に繋がった。一方の輸入額は前年同月比+22.6%となり、前月(同+21.8%)から伸びが加速している。前月比は+5.2%と前月(同+7.7%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調は依然減少傾向にあるものの、底入れの動きが進みつつある。輸出の底堅い動きを反映して中間財関連の輸入は旺盛な推移をみせるなか、消費財関連の輸入にも底堅さがみられるものの、産業関連を中心とする資本財の輸入の鈍化が足かせになっている。結果、貿易収支は+98.65億リングと前月(+80.37億リング)から黒字幅が拡大している。

図7 MY 貿易動向の推移



[香港] ～雇用改善の頭打ちやインフレ圧力に加え、中国本土からの来訪者数の頭打ちも小売に影響か～

3日に発表された8月の小売売上高（数量ベース）は前年同月比+3.2%となり、前月（同+4.6%）から伸びが鈍化した。前月比も▲3.87%と前月（同+3.35%）から2ヶ月ぶりに減少に転じている上、中期的な基調も2ヶ月ぶりに減少に転じるなど、引き続き一進一退の展開が続いている。財別では、宝飾品などの高額品のほか、自動車をはじめとする耐久消費財に対する需要に底入れの動きがみられるほか、食料品など生活必需品に対する需要も底堅く推移している一方、衣類をはじめとする日用品全般のほか、燃料関連の需要も弱含んで下押し圧力に繋がっている。このところの雇用を取り巻く環境は、中国本土経済の持ち直しや世界経済の自律回復などに伴う外需拡大の動きを反映して改善基調が続いてきたものの、足下では頭打ちの様相をみせるほか、年明け以降のインフレ率の上振れなどに伴う実質購買力の下押し圧力も小売売上上の重石になっている可能性がある。さらに、足下では昨年来底入れの動きが続いてきた中国本土からの来訪者数に頭打ち感が出ていることも、小売売上上の足かせになっているとみられる。

図8 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



以上